

ラジオを補完する稀有な存在であった「週刊 NHK ラジオ新聞」が、テレビの放送開始によって大転換期を迎えるまでの5年間の軌跡

電子書籍

週刊 NHK ラジオ新聞 復刻版

終戦後間もない 1950 年 1 月 1 日。

英国放送協会 (BBC) 刊行の週刊『ラジオ・タイムス』に負けない新聞を標榜し、創刊。

ラジオからテレビへとメディアが大きく変化する時期に、放送メディアがどう考え、番組と向き合ったのか、国民はラジオやテレビに何を求め、どのように暮らしていたのか、という当時の情勢を知ることが出来る貴重な史料。

聞き逃すと呼び戻しが効かないというラジオの欠点を補完し、有料聴取者により多くの情報を提供する事を目的として創刊され、「番組情報誌の先駆ける存在」であった「週刊 NHK ラジオ新聞」が電子書籍で復刻。



高性能 OCR で精度の高い検索を実現

2023 年 7 月発売予定

同時 1 ~ 3
アクセス共に
同一価格です

第 1 回配本 (1950 年 1 月 21 日号 (通巻 4 号) ~ 1951 年 12 月 29 日号 (通巻 105 号)) ※欠号あり

本体価格：**176,000 円 + 税** (税込 193,600 円) ISBN 978-4-86759-347-9

※上記を 2 期に分けて分売もいたします。 各本体価格：88,000 円 + 税 (税込 96,800 円)

創刊 1950 年 ~ 終刊 1954 年 12 月 26 日号まで (以降『NHK 新聞』に改題) を 3 回に分けて刊行予定

本書の試読は、刊行と同時に閲覧が出来ます！

試読サイト：<https://kanae-ebook-0303.actibookone.com/>



週刊NHKラジオ新聞 復刻版

戦後間もない、放送と言えはまだラジオしかなかった1950年からテレビの放送開始によって大転換期を迎える1954年まで、ラジオを補完する稀有な存在であった「NHKラジオ新聞」の年間の軌跡。掲載内容は、番組の予定・解説・出演者情報という番組関連情報にとどまらず、国民の身近な関心事から国際的な時事関連の記事までと幅広い。



全3回配本の内容

●第1回配本（1950年～1951年）

放送開始から25年。敗戦によって落ち込んだ有料聴取者数が800万人にまで回復。放送法の成立によってNHKは公共企業体へと再生する。

●第2回配本（1952年～1953年）

1953年2月にテレビは本放送を開始。一方のラジオは放送受信契約数が1000万人を超え、まさに絶頂期を迎える。

●第3回配本（1954年）

ラジオが全盛期を迎えると同時にテレビが普及し始めた、まさに大転換期。

本書を推薦いたします（敬称略）

水越 伸 関西大学社会学部 教授

新しいメディアが社会に姿を現すと、それがどのようなものなのか、何がおもしろいのかなどをめぐって、人々は好奇心旺盛になる。インターネットが登場した1990年代には日本には数多くの月刊誌が登場し、テレビがまだ若かった1960年代にも有力な民放はそれぞれが広報誌を出していた。それらは技術的知識から番組やコンテンツ批評まで、多様な情報をユーザーや視聴者に提供し、そのメディア文化を形成する重要な役割を担っていた。

『週刊NHKラジオ新聞』は、戦後日本の放送が本格始動した1950年に創刊され、その草創期を支えた。私たちはここに、古いものから新しいものへのメディア文化の遷移とリアリティを読み取ることができる。

お奨めします

近現代史、放送史、メディア社会史、国際社会史、芸能史、民衆史、総合文化史、経済産業史、言語文化、総合政策、オーラルヒストリー（口述歴史）及び文学研究者、大学図書館、公共図書館、専門学校

株式会社かなえ

〒170-0014 東京都豊島区池袋1-10-8
TEL : 03-3982-6633 FAX : 03-6789-5706
Email : info@kanae-book.co.jp
URL : <https://kanae-book.co.jp>